

★ 栄光・表彰 ～輝くとき～

各分野で活躍された皆さまをご紹介します

(敬称略)

★ 第51回東北ジュニア選手権水泳競技大会 ★



▶11～12歳男子 100m自由形 第1位 / 50m自由形 第2位 中村恭一 (アクアスポーツ少年団)

3月10日から11日の2日間、青森県青森市で行われた大会で2種目にわたり活躍されました。

★ 令和7年度秋田県選手権水泳競技大会 ★



▶男子 50m バタフライ 大会記録 28.65 佐藤来樹 (アクアスポーツ少年団)

同大会の標準記録を突破し、8月に開催される全国JOCジュニアオリンピックカップに秋田県代表として出場が決定しました。

★ 令和7年度秋田県小学生ソフトテニス選手権大会 ★



左から武藤さん、細川さん、江橋さん。

【全国大会出場決定】

- ▶男子の部 3位 武藤小太郎 (神代小・6年)
- ▶女子の部 2位 細川依愛 (角館小・5年)
- ▶女子の部 3位 江橋楓 (西明寺小・6年)

3人は、7月31日から茨城県神栖市で行われる第42回全日本小学生ソフトテニス大会に秋田県代表チームとして団体戦・個人戦に出場します。

★ 令和7年度 大曲仙北中学校陸上競技大会 ★

※各種目、市内の4位まで掲載。
○数字は順位。

4位までが、7月に行われる全県中学総体陸上競技大会の出場権を獲得しています。

男子

▶1年 100m ②藤枝諒 (角館) ④浅利礼央 (松木内) ▶2年 100m ③草薨連之介 (生保内) ▶2・3年 1500m ①林崎夏偉斗 (角館) ③清水健真 (神代) ▶低4×100mリレー ②角館 ▶3年 100m ③草薨碧羽 (神代) ▶共通 400m ③佐々木海翔 (角館) ▶共通 800m ③林崎夏偉斗 (角館) ④草薨碧羽 (神代) ▶共通 3000m ②津嶋太志 (角館) ③佐藤連 (角館) ▶共通 4×100mリレー ④角館 ▶砲丸投 ④斎藤輝愛 (角館) ▶四種競技 ③小松嵐汰 (角館) ▶男子総合 準優勝 角館

女子

▶1年 1500m ②佐藤愛 (角館) ▶2年 100m ③辻愛蘭 (角館) ▶低4×100mリレー ④角館 ▶3年 100m ④佐藤仁衣南 (角館) ▶共通 200m ③伊藤咲羽 (西明寺) ▶共通 100mハードル ③渡辺来愛 (角館) ▶共通 4×100mリレー ③角館 ④西明寺 ▶走高跳 ①伊藤心春 (角館) ▶走幅跳 ①伊藤咲羽 (西明寺) ▶砲丸投 ①齋藤柑奈 (西明寺) ▶四種競技 ④佐藤瑤姫 (角館)

令和7年春の叙勲

＜春の叙勲＞

瑞宝単光章

放送業務功労



大河智 さん
(65歳 田沢湖生保内)

元日本放送協会職員。技術職として秋田、郡山、盛岡、福島放送局で放送設備の維持管理、番組制作、緊急報道業務などに通算42年間従事。平成10年に開催された長野オリンピックの中継や東日本大震災の対応に携わるなど放送事業を通じて社会に貢献されました。また、独自技術の開発を推進、技術向上や後進の指導育成により業界の発展に尽力されました。

令和7年春の叙勲が発表され、仙北市からは次の方が受章されました。心からお祝い申し上げます。
(※年齢は、受章時を掲載)

仙北市の魅力を描く

イラストレーター花凜さん イラスト作品『紡ぐ光』を贈呈

角館在住のイラストレーター花凜さんが、仙北市の「花・鳥・木」をテーマに描いた『紡ぐ光』を仙北市に贈呈され、市からは感謝状が贈られました。

花凜さんは「角館には2年前に移住してきたが、自然豊かで穏やかなところが大好き。仙北市の花がサクラだというのは皆知っているが、イヌワシとブナが市の鳥と木になっていることは知らない方が多かった。個展を開催した際、仙北市のシンボルを作品に取り入れることで、



イラスト作品『紡ぐ光』。

市民の方に自分たちが住む地域の魅力を再認識していただけるのではと考えた。また、観光客の方にも仙北市のことを知っていただくきっかけになればという思いを込めて描いた」と制作の経緯を話しました。

だれでも楽しめる生涯学習講座

春のスポーツ体験教室

5月24日、大曲支援学校せんぼく校の体育館を会場に「春のスポーツ体験教室」が開催されました。

せんぼく校の同窓生が交流を深める「せんぼく桜スクール」の皆さんや、指定障がい福祉サービス事業所・愛仙の利用者、地域の方などたくさんの方が参加しました。ビンボウリングやモルック、卓球バレーのほか、今年はeスポーツを楽しみながら交流を深めました。



各種目を通じて交流が広がりました。

角館あきんど塾・東北にがおえサミットから 寄付金をいただきました

角館あきんど塾と東北にがおえサミットの共催による「第30回東北にがおえ桜サミット」における収益の一部を、桜保護管理費用としてご寄付いただきました。
寄付金は、桜の肥料や治療のための薬剤などに有効活用させていただきます。

善意ありがとうございます

自衛隊募集相談員が委嘱されました

このたび、次の4人の方が、自衛隊秋田地方協力本部長ならびに仙北市長より自衛隊募集相談員に委嘱されました。

自衛隊募集相談員には、自衛官志願者に関する情報の提供、自衛隊秋田地方協力本部が行う募集の広報などにご協力いただいています。

- ▶ 草薨晃さん（角館町菌田）
- ▶ 佐藤利隆さん（西木町上荒井）
- ▶ 千葉榮幸さん（田沢湖田沢）
- ▶ 熊谷千秋さん（田沢湖生保内）



左から熊谷さん、佐藤さん、草薨さん、千葉さん。

国家戦略特別区域会議

地方創生に向けて

5月29日、伊東良孝内閣府特命担当大臣（地方創生担当）や今井絵理子内閣府大臣政務官などが参加する国家戦略特別区域会議に、赤上副市長と仙北市内でインターナショナルスクール開校の準備を進めているナイツブリッジハウスインターナショナルスクールのジョン・フエアロン代表がオンラインで出席しました。仙北市では、海外から地方に新たな人の流れを生み出すことを目的に、学生ビザ申請者の親などが申請できる「保護者ビザ」の新規提案を行いました。引き続き、地方創生に貢献する規制・制度改革に向けて取り組みを推進します。



オンライン会議の様子。

国家戦略特別区域会議の詳細はこちら
(内閣府国家戦略特区ホームページ)



国家戦略特区とは

民間企業が地域振興に資する事業を展開するために、法律の規制を緩和することができる特別な区域のことです。
仙北市は国家戦略特区の中でも「地方創生特区」、「近未来技術実証特区」に指定されています。

地方創生特区、近未来技術実証特区とは

『地方創生特区』は、地方創生の実現を目指す「志の高い、やる気のある地方の自治体」を指定するものです。
『近未来技術実証特区』は遠隔医療、遠隔教育、自動飛行、自動走行などの近未来技術、規制改革を検討した上でこれらの技術実証を推進する自治体を指定するものです。

登山シーズン到来

秋田駒ヶ岳山開き

6月1日、秋田駒ヶ岳の山開きが行われました。午前は曇りでしたが午後には晴天となり、市内外から約100人の登山客が訪れました。8合目では神事と式典が行われ、今シーズンの安全を祈願しました。そして、男岳山頂では南八幡平山岳協会会長の高橋吉一さんと栗石町山岳協会会長の所博幸さんがピッケル交換を行いました。



男岳山頂でピッケル交換。



残雪のなか慎重に歩みを進める登山者たち。

滞在型観光促進へ

「西宮家」が

生まれ変わります

来春、「あきた角館 西宮家」は建物全体を活用した宿泊施設「和のあ角館」として生まれ変わります。

6月9日、市役所角館庁舎で3者共同記者会見が行われました。

仙北市、一般社団法人田沢湖・角館観光協会、東日本旅客鉄道株式会社秋田支社の3者による連携事業の一環として、観光需要の更なる創出やインバウンドの誘客強化などに取り組みます。
井料青海秋田支社長（撮影当時）は「武家屋敷などの地域の魅力を活かし、住民の皆さまと一緒に地域活性化を目指したい」と話しました。



左から井料支社長、田口市長、安藤観光協会会長。



ついに 任期最後の年 溝口真矢

こんにちは、仙北市地域おこし協力隊3年目の溝口です。協力隊の任期もあと残すところ9か月。月並みな表現ですが、就任からあつという間に時間が過ぎてしまいました。

協力隊での最初の2年はとにかくこの生活に慣れることで精一杯。例えば、私の住む田沢湖地域では冬に薪ストーブを使うところも多く、冬が終わればすぐに次の冬のための薪の準備が始まりますが、私は2年目までは薪を割っている余裕もなく、売ってある薪を調達することしかできませんでした。けれども、今年は原木を調達し、輪切りから新割りまで自分でやってみることでできました。不器用にチェーンソーで原木を切っていると、ご近所の方々が見かねて丁寧に指導してくれたり、ジュースを持ってきてくれたり、本当に温かい優しさで応援してくれて、やっと自分もこの地域の生活者としての自信と自覚を持つことが少しだけできてきた気がします。

私が今協力隊としてできることは、こうして地域の生き方を自分自身で体験し、その素晴らしさをできるだけ多くの人に伝え、この地域に新たに関わっ



アーティストインレジデンスでの農泊体験。

てくれる人を増やすことですが、そのための仕組みとして昨秋から10日間の滞在体験プログラム「アーティストインレジデンス」を毎月実施し、6回の開催にわたって12人の参加者を受け入れました。そしてそのうち2人を移住に繋げることもできました。そしてその新しい移住者がさらに人を呼び、新しい動きがたちこちで見られるようになります。

残り少ない任期、そして退任後は、より地域の一員としてしっかり存在できるよう精進し続けると共に、生活の場としての仙北市の素晴らしさを伝え、徐々に規模を大きくしながら、関わり人口を作っていく活動に取り組んでいきたいです。

ここまで本当に多くの方々を支えられて、ここでの私の活動や生活が続けられていることを深く感謝しています。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしく願います。